

最近、少しずつ広がり出した「林業女子」という呼称をご存じだろうか。森林に興味を持つ女性はそれなりにいるが、なかでも林業に熱い思いを抱く女性たちを指す。

森林ではなく、林業なのである。山仕事に興味を持ち、自ら手がけたいと思っている女性がが増えていく。とはいえ、今のところ中心となっているのは、学生だったり林業職の公務員などが多い。しかし、徐々に林業現場で働く女性も登場してきた。

みどり作る 人々

第19回

森林ジャーナリスト 田中淳夫

そんな林業女子の先駆的な存在であり、身につけた技術もトップクラスなのが、寺田菜穂子さん（34）である。

寺田さんが林業現場に入ったのは、約8年前。長野県の上伊那森林組合で働き続け、その後独立。一人親方として山仕事を請け負い、高木に登って作業する「特殊伐採」も手がけるのだ。

2年前に結婚して岐阜県美濃市に移り住み、現在はNPO法人木の杜学舎のスタッフおよび林業女子会@岐阜のメンバー。彼女から、林業女子の世界を紹介してもらおう。



鉋も自由に使いこなす寺田菜穂子さん

山の杜学舎 寺田菜穂子さんの 「林業女子」の トップリーダー

●特殊伐採手がける唯一の女性

寺田さんは大阪府摂津市に生まれ育った。高校生の頃から水に興味を持ち、水に関係している森を学ぼうと、信州大学農学部森林科学科に進学する。

「そこで林業の世界にハマってしまったんです（笑）。森林というより職業としての林業に。女性でも林業ができないかと考えました」

卒論は、林業界の女性作業員について調べた。ところが、当時は林業現場で働く女性は非常に

少なかった。情報を得て問い合わせても、もう辞めている。いても父や夫と一緒に、あるいは後を継いで従事している人々だった。

それでも自分は林業をやりたい。その思いから、卒業後は上伊那森林組合に応募した。事務職ではなく、現場作業員として。幸い採用されたが、森林組合にとっても初めての女性である。同期の男は、実家が林業を営むなど経験者ばかり。体力的にも技術的にも厳しかった。それでも必死についていこうと頑張る。

「やはり差が出るんです。みんないい人ですが、私がついてくれないんですが、それが負担になる。私が丸太を動かすのに手こずっていると、さっと手伝ってくれたり、仕事を代わってくれたり。男には挨拶しない人が、私だけに声をかけてくれるのもプレッシャーでした」

ときにキレたこともあるという。そして休んでしまった。今思えば、片意地張っていたのだろう。周りの人は決して特別扱いしようとしたのではないが、壁を作ってしまった。

しかし、徐々に乗り越えた。体力や技術が身につくと、さほど男女差を意識しなくなる。また男と張り合わず、自分にできることをやろうという気持ちになっていく。

そして4年目。独立して個人事業主になった。自分なりに納得して仕事をしたいという思いからだった。自らで森林所有者と交渉し、山仕事を請け負うのだ。1人では厳しい作業は、同じような個人と組んで行う。

そうした中で、特殊伐採の技術も身につけた。

特殊伐採とは、周りに人家などがあり通常の伐採では危険な場合、樹上に登って上から徐々に伐ってクレーン車で下ろしたりロープで吊り下ろす方法だ。高さ30mの木に登り、そこでチェーンソーを操ったりロープテクニクを駆使することもある。おそらく特殊伐採を行う女性には、日本では彼女1人だろう。

●林業女子会をリードする

2年ほど個人で行っていたが、たまたま趣味のカヌーで知り合った人と結婚。夫は岐阜市に勤めていたので、岐阜に転居することにした。

「でも山仕事から離れるつもりはなくて、岐阜市への通勤圏内で林業のできるところを探し

て、美濃市を選んだんです」

美濃市には、森林・林業の専門家を養成する岐阜県立森林文化アカデミーがあり、林業の素地がある。役所に紹介されたのがNPO法人柚の杜学舎だ。鈴木章代表は大学の先輩でもありアカデミーの卒業生だった。

このNPOでは、造林や伐採搬出だけの林業ではなく、景観整備や地域づくり計画作成、シンポジウムの企画など幅広い仕事を行う。現場作業ができて、企画もできる寺田さんは願ってもない人材だった。

「こちらに来て子供ができて、現在は子育て中なので山の現場に出ていません。その代わりに森林計画の作成などプランナーとして関わって

ます。また住んでいる集落の活性化事業も手がけています」

取材時も、地元の「山の駅ふくべ」でシイタケの原木づくりの作業を行っていた。ほだ木をつくって販売するのだ。こうした作業を通じて地域の人々がつながって行こうという企画である。また、この作業に林業女子会@岐阜のメンバーも参加していた。

この会は、昨年8月にアカデミーの女子学生が発足させた。林業女子会は、京都を皮切りに現在は静岡、栃木、そして東京にも結成されている。岐阜は3番目だ。いずれも林業に興味を持つ女性のネットワークをつくり、世間に林業についてもっとよく知ってもらうことをめざす。寺田さんも声をかけられてすぐに入会した。現在会員は20人近くいる。

@岐阜を立ち上げたのは学生だが、メンバーには寺田さんを始め、森林組合や製材工場、公共機関に勤めたり、木工を手がけるなど社会人が多い。寺田さんは、その中で「仕事部」をつくって、実際に森林調査や伐採などの仕事を行っていきこうとしている。

「林業に興味があるのに、あと一歩踏み込めずにいる女性を招き入れたい」という寺田さんは、林業女子のトップリーダーなのだ。

林業現場に女性が少ない理由は、単に男性との体力差だけではない。世間の好奇心な目や周囲の反対、悩みに応えてくれる先輩がいない……などもある。彼女の存在と経験は、世間に女性の目からの林業を伝える役割を果たせるだろう。



樹上に登って行う「特殊伐採」を手がける女性は、彼女1人だ



地域活動の一環としてシイタケのホダ木づくりにも取り組んでいる